

「三本松から音楽の風を～Part II」

三本松市民センター

1 事業概要

令和2年度から、市民企画員が「音楽」にテーマを絞った催しを企画・立案する企画会議を行い、会場を広い体育館に移してコンサートを開催し好評を博してきました。令和3年度も新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、一層市民感覚を生かしたコンサートを企画・運営することで、「市民が気軽に集い交流する場」、「『音楽』による癒しの場」の提供を目指しています。



2 今年度の活動



6人の市民企画員が集まり、4回の定例会議を行った結果、3回のコンサートを開催することにしました。10月「ミュージックあらかると」は常盤木学園高等学校音楽科の生徒による演奏、12月「アフタヌーンコンサート」は Duo☆fraise&otabe による電子ピアノ・鍵盤ハーモニカ・ドラムの演奏を行い、70～80人の参加者に様々な楽器の音色を堪能していただきました。市民企画員による事前の会議では、コンサート内容（演奏者の

交渉・演奏曲目の提案）やコロナ対策、集客の方法など積極的に意見を出し合い、コンサート当日は会場準備から受付・誘導・講師対応・司会進行など多くの役を担いました。令和4年3月には「スプリングコンサート」を開催予定です。

3 成果と課題

コンサートには、青葉区のみならず他区からも大勢の方が参加しています。コロナ禍で閉塞感漂う昨今、生演奏による癒しの時間が、参加者の活力になっています。アンケートにも、コンサートの定期開催を希望する意見が多くあります。

6人の市民企画員は令和2年度から参加している60～70代の音楽好きの方々です。コンサートの流れを十分に把握し、それぞれの役割を果たしています。コンサート以外でも、市民センター事業への協力を惜しまず、自身の地域でもリーダー的役割を担っています。しかし、若い世代の仲間を増やしたいという思いも持っています。若い世代の市民企画員を増やすことが、今後の課題です。



4 今後の展望



市民企画講座としてのコンサートは、令和3年度をもって終了しますが、2年間市民企画員としてコンサートに関わった方々は、「音楽の風」ボランティアとして、今後も市民センター主催のコンサート等において、一層主体的に活動していきます。令和4年度も、市民企画会議をきっかけに、地域住民が市民センター事業や地域活動へ積極的に参画できるように働き掛けると共に、市民主体の学びを支えていきます。